

【ポスター発表】

**社会的排除とソーシャルワーク実践**

ーハンセン病療養所の現在ー

○ 東洋大学大学院/佐野短期大学 氏名 大熊信成 (会員番号 002888)

キーワード ヴァルネラビリティ 社会的排除 差別と偏見

**1. 研究目的**

ソーシャルワーク実践サービスは、個々のニーズを正しく把握し、且つ、そのニーズに対応したサービスについての多岐にわたる様々な分野の連携と統合が「ソーシャルワーク実践」に求められる。現代社会における社会福祉は、一般市民の日常生活を支える重要な仕組みの一部となって久しいが、それを余すことなくサービスを供給できているかどうかといえど否と言わざるを得ない。本研究では、現代社会における新しいコミュニティでは何を普遍化にするかということに焦点をあて、「ソーシャルワークを展開していくことで、社会にとって何がもっともよい体制なのか」、「社会における社会的排除（ソーシャルエクスクルージョン）と社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）との関係」について検討し、ソーシャル・インクルージョンを具現化させるソーシャルワーク実践の可能性について考察する。

**2. 研究の視点および方法**

全国にある国立 13、私立 2 のハンセン病療養所にはいまも 2,000 名<sup>i</sup>が生活している。国はかつての過ちを認め、入居者の社会復帰が進められているものの、入居者に対する偏見と差別はいまもなお根強く残っている。平成 20 年 7 月から平成 26 年 5 月にかけて国立療養所において在園者とソーシャルワーカーの方からインタビューをさせていただく機会を与えられた。それぞれ 2 時間程度の聞き取り調査を行い、逐語記録を作成した。

**3. 倫理的配慮**

インタビューに際しては、改めて研究目的、方法、録音の承諾、データの匿名での公表について文書と口頭にて説明し、「調査・実験参加に関する同意書」及び「個人情報の利用に関する同意書」の 2 通を渡し、それぞれ同意書への署名と捺印をいただいた。同意書は申請者の研究室の鍵のかかる机の引き出しに保管する。療養所及び対象者の個人情報には十分注意を払い、特定されることのないよう配慮した。面接にあたっては筆者から直接面接を依頼し、承諾を得た上で面接を実施した。さらに承諾を得た上で ICレコーダーを使用し、文章化した後にデータを破棄した。さらに学会にて発表することを口頭及び文章で伝え了承を得て、サインを頂いた。また本研究は東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科研究倫理委員会の承認を得ている。

**4. 研究結果**

我が国ではハンセン病に対して徹底した隔離政策、すなわち社会的排除 が行われたの

であり、「らい予防法」が廃止された現在においてもこの社会的排除は偏見と差別によってなお根強く社会にはびこっているといても過言ではない。明治40年の「癩予防ニ関スル件」から平成8年の「らい予防法の廃止に関する法律」まで実に90年近く、国は誤った政策を行っていたといえるであろう。社会的弱者といわれる人々は、偏見→差別→社会的排除→差別という構造に陥りやすい。差異が差別を生むのではなく差別が差異を生み出していく。すなわち、社会的排除は人為的に作られる。社会的排除の問題に対する正しい認識は、繰り返し広めていく必要がある。正しい知見をもったソーシャルワーカーによるハンセン病回復者に対する適切な支援が求められている。しかしながらインタビューにおいてすべての人が社会復帰を望んでいるわけではない事実が明らかになった。すべてのものに違いがあり、その違いを肯定的に受け止め、それをつなぎ合わせることにより構築された社会こそがソーシャル・インクルージョンである。差別や偏見を無くし、孤立や排除を生み出してしまふ社会システムそのものに問題点を見出し、それを社会全体の視点から改善していかなければならない。保健、医療、教育、労働、住宅、環境整備など多岐にわたる分野の連携と統合が必要不可欠であり、共に歩む社会が築かれていくことが求められている。社会的排除の払拭とインクルーシブ社会への実現の可能性を探り、さらに研究を重ね示唆できればと考える。

## 5. 考察

研究を遂行する上で、研究レビューによる研究の正当化をどのように進めていき、その根拠を探る作業を行った。文献の整理を行い、問題意識を問い直してみた。また3つの療養所においてインタビュー調査を実施した。しかしながら概念定義が曖昧であり、仮説の構築をどのようにするのか、仮説の検証方法をどうするのが明確化されていないことから、さらに文献を整理する必要がある、研究の枠組みを見直してみる必要があると考える。

「家族との絆」、「入所者の生活」、「人生の選択肢」、「社会との共生」はいまだ取り戻せていない。今後さらにハンセン病問題の歴史的背景と経緯を明らかにし、ハンセン病療養所における元ハンセン病患者の方からの聞き取り調査をもとに、現在のハンセン病療養所の問題点と課題を考察するとともに、社会的排除やインクルーシブ社会への実現の可能性を探っていきたい。ハンセン病問題を風化させないためにも療養所の人たちが安心して地域とともに生きることができる支援をしていかなければならない。この予備的調査を踏まえ今後さらに考察していく。

---

<sup>i</sup> 2014年5月現在：出所 国立ハンセン病療養所：厚生労働省及びハンセン病療養所の現在：国立ハンセン病資料館